

2012 年度事業報告

1. 荒川クリーンエイドの運営

荒川やその支流のゴミ拾い活動「荒川クリーンエイド 2012」を実施し、様々な団体と主体間連携を推進した。

[主な実施事項]

○荒川クリーンエイド【数えるゴミ拾い】

荒川クリーンエイド 2012 では、146 会場がエントリーされ、133 会場で実施、参加者の合計は過去最高の 13,443 人となった。

○主催・共催会場の運営

12 月 1 日に SAVE JAPAN プロジェクトとして、主催して運営した。6 月 3 日に「24 時間テレビ」チャリティー委員会、10 月 13 日に(株)チームビルディングジャパン、10 月 14 日にふるさと清掃運動会と、それぞれ共催で荒川クリーンエイドを実施し、研修プログラムの開発や、荒川クリーンエイドを多くの皆さんに知っていただく機会とした。

○特定テーマのゴミ拾い

「荒川ペットボトル大捜索！」および「マイボトル de ゴミ拾い。」を継続実施し、漂着ゴミの発生抑制を推進した。

○実施説明・体験会の開催

9 月 8 日に説明・体験会を開催し、荒川クリーンエイドのキャプテン等の担当者に趣旨や運営方針、実施方法を共有した。これに併せ、大妻女子大の兼廣春之教授をお招きし、「漂着ゴミによる海洋汚染の最新情報とボランティアにできること」と題して講演いただいた。また、春・秋に下平井水辺の楽校と共催で開催し、実施を検討している担当者が荒川クリーンエイドを体験できる機会とした。

○活動のサポート

企業などの実施団体の要望に応じて、事務局スタッフを中心に活動をサポートした。

○報告会の開催

2 月 15 日に報告会を開催し、2012 年の実施概況とゴミデータの集約結果等活動の成果を報告した。併せて、2012 年に特に大きく貢献いただいた団体・企業に功労賞表彰を授与した。

2. 生物多様性の保全

荒川での健全な生態系の保全を目指して、自然地の維持管理の仕組み作りや希少種の保全に取り組んだ。

[主な実施事項]

○里川創造プロジェクト

小松川自然地、千住桜木地区の 2 か所において地域住民等が利用できる里川を創出した自然環境の創造を目指す活動を実施した。

小松川自然地では、「里川小松川自然地協議会」の事務局となり、東京都新しい公共の場づくりのためのモデル事業として、一般市民向けに 10 回、小学校向けに 5 回、企業向けに 11 回の里川プログラムを実施し、合計 2,318 人の参加を得た。他にも、セイタカアワダチソウ草地の植生調査、市民参加型のモニタリング「バッタ・キリギリス調べ」、啓発パンフレットの作成、アダプトサインボードの作成等を行った。

千住桜木地区では、地域住民の参加を募り、3 回の自然体験・自然管理活動を実施した。

2 月の報告・連絡会に併せ、自然管理の展望をテーマとしたパネルディスカッションを開催した。

○絶滅危惧種の復活プロジェクト

ヒヌマイトトンボの生息地において、モニタリングルートを整備した。延べ 13 回にわたり、現地で生息個体数や生息環境のモニタリングを実施し、7 匹の生息を確認した。また、12 月 1 日には生息地の拡大に向けて一般に開かれた活動として、ヨシ刈りとゴミ拾いを実施し、その後も生息環境を整備する活動を行った。

3. 環境教育の推進

学校、地域の親子、企業の新入社員を対象に、河川環境やゴミへの関心を高めるプログラムを実施した。

[主な実施事項]

○小中学校の「総合的な学習の時間」の支援

荒川下流の自然地において、荒川クリーンエイドの実施を含めた水辺の学習をサポートした。8 校合計 29 回のサポートを実施した。

○青少年育成

下平井水辺の楽校、里川小松川自然地協議会と連携し、親子向けイベントを実施した。

○社員研修支援

2 社で荒川クリーンエイドを活用した新入社員研修を実施した。また、研修専門家と協働してチームビルディングを取り入れたプログラムを開発し、10 月 13 日に実際にプログラムを実施、次年度の本格実施に向け準備を行った。

4. 水質調査の実施

希望団体を募り、パックテスト試薬やマニュアルなどを配布して、春と秋に水質調査を実施した。

[主な実施事項]

○身近な水環境の全国一斉調査への参加

6 月 3 日(日)午前 10 時を中心に、荒川本流と流域各地の計 41 地点で調査を実施。全国一斉調査である COD に加えて、pH、アンモニア態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、透視度の調査を実施。データをとりまとめて全国水環境マップ実行委員会事務局に送付した。また同実行委員会に参加し、調査活動の展開や運営について検討を行った。

○秋のクリーンエイド時の水質調査

荒川クリーンエイド実施時に、荒川本川およびその支川での調査を実施した。調査項目は、温度、COD、pH、アンモニア態窒素、硝酸態窒素、亜硝酸態窒素および、透視度などとした。

5. 流域連携

荒川流域下流の市民団体や行政、ひいては、中流や源流の市民団体・自治体と連携して、自然地の在り方を検討し、自然再生に取り組むなど、荒川流域が抱える課題の解決に向けて努力した。

[主な実施事項]

○「荒川自然懇談会」を通じた荒川下流河川事務所との協働

当フォーラム役員が多数参加する荒川自然連絡会と荒川下流河川事務所との間で行っている「荒川自然懇談会」を官民協働の場とし、他市民団体と分担して生物のモニタリングを実施した。

○荒川流域再生プロジェクトへの参加

NPO 法人荒川流域ネットワークが3月17日に主催した「荒川流域再生シンポジウム」を共催した。同プロジェクトが中心に実施する「アユ遡上支援作戦」に参加し、流域連携による「魚の行き交う川作り」に協力した。

○荒川源流エコツアーの企画・実施

9月1～2日に、1泊2日で荒川の源流部・秩父市大滝への源流エコツアーを実施し、20名が参加した。秩父市の薪拾いボランティアに参加し、秩父市職員、NPO もりと水の源流文化塾の方々と意見交換を行い、源流域の課題解決に向けた交流の機会とした。

6. 他セクターや全国・世界とつながる活動

埼玉と東京、ひいては、荒川流域内外の他のセクターとの連携を通じて、全国・世界とつながる活動を展開した。

[主な実施事項]

○埼玉県河川環境団体連絡協議会および川の再生交流会への参加

埼玉県内の河川団体の連合体である埼玉県河川環境団体連絡協議会に参加した。埼玉県が主催し、同協議会が協力して2月3日実施した「川の再生交流会」に参加協力し、埼玉県内での連携を図った。

○他河川の団体と協働（全国リバークリーンエイドに向けて）

全国の川やゴミ拾いに関わる6団体に呼びかけ、川でのゴミ拾い活動の連携を図る「ふるさとの川クリーン大作戦」を実施した。

○一般社団法人 JEAN との協力

一般社団法人 JEAN を通じて、荒川クリーンエイドのゴミ調査結果を世界の海洋ゴミ調査に提出し、世界の海洋ゴミ問題の解決に貢献した。

○海ごみサミットで発表

8月24日～25日に京都府亀岡市で開催された海ごみサミットに参加し、荒川クリーンエイドの取り組みを報告した。

○東京都23区とことん討論会で発表

ゴミ削減に向けた市民・事業者・行政の意見交換の場である同会（8月22日に江戸川区で開催）の全体会で、荒川クリーンエイド・フォーラムの取り組みを発表した。

7. 広報・情報発信

ホームページやニュースレターなどの広報媒体に加え、テレビ、新聞など外部の広報媒体も活用した。また、活動への参加者を募集すること、ゴミデータを活用し社会へ問題提起することを念頭に情報を発信した。

[主な実施事項]

○ホームページ

わかりやすい情報の提供を念頭に、最新情報や各詳細コンテンツを追加し、随時更新した。

○ニュースレター

年度内に3回（4月、8月、1月）発行した。表紙を印象的な写真とし、内容は特集を組み込むなどテーマ性を重視した紙面を工夫した。

○Eメールニュース

毎月初日に（年間12回）配信し、各月の旬のニュースを迅速に発信した。

○報告集

河川整備基金の助成金を補充して作成した。ゴミのデータや活動報告等をコンパクトに集約し、前年度同様インタビュー記事を多く取り入れ、活動の意義や成果を伝えた。

○ポスター・リーフレット

関東建設弘済会の助成金により作成した。秋のクリーンエイド活動を周知する内容とした。実施団体および沿川の自治体に活用いただいたほか、沿川の駅でも配布・貼付いただいた。

○プレスリリース

参加者の募集やゴミの発生抑制、自然環境の保全の啓発を目的に4回発信した。

8. 組織運営

自然地管理など新たな事業を積極的に立案・推進し、新たな助成金の獲得などを実現した。

[主な実施事項]

○認定 NPO 取得の検討

認定 NPO 法人格の取得を検討したが、条件を満たさない点があることが判明したため、申請を見送った。

○ファンドレイジング（資金調達）

春の新入社員研修企画など自主事業化できるサポートサービスを強化した。企業・団体に対して活動への寄付・協賛の依頼を積極的に行うなど自主財源基盤の強化に努めた。

○連絡会の開催

2月15日に「荒川クリーンエイド・フォーラム 2012 報告・連絡会」を開催し、46名の会員・関係者等とコミュニケーションを図った。

○事務局体制の強化

職員の募集を行い、10月に専従職員を1名追加したが、12月末に事務局長が退職、3月には専従職員1名が退職した。4月より非専従職員1名を追加することを決め、2013年度は専従職員1名、非専従職員3名でスタートする。

2012 年度活動報告の概要一覧

事業	活動名	実施日・会場等		概要
1 荒川クリーンエイドの運営	春のクリーンエイド	4～8月		荒川流域で年間 133 会場、参加者 13,443 人で実施
	秋のクリーンエイド	9～12月		
	荒川ペットボトル大捜索！	4～3月		ペットボトルの種類別個数の調査
	実施説明会・体験会	4/8、9/8、10/28		活動の趣旨・実施方法の説明等 説明会の前に体験会を開催
	主催・共催会場の運営	6/3、10/13,14、12/1		全国的なプロジェクト等との連携など
	報告会	2月15日		2012年の成果報告
2 生物多様性の保全	里川創造プロジェクト	4月～	小松川自然地	住民や企業参加者と共に、外来植物の除草、ヨシ刈りなど計 20 回以上実施
		翌年3月	千住桜木	
	絶滅危惧種の復活プロジェクト	4月～翌年3月		個体数や生息環境のモニタリング、生息地拡大に向けた環境づくりを実施
3 環境教育	小中学校環境学習支援	年間 29 回		水辺の環境学習を支援
	青少年育成	年間 8 回		荒川下流の自然地で親子向イベントを開催
	社員研修支援	4,5 月		2 件実施
4 水質調査	身近な水環境の全国一斉調査	6月3日を中心に一斉調査		荒川下流域(一部江戸川流域)41 地点で実施
		12月1日		
	秋のクリーンエイド時水質調査	10～11月 会場近くの橋中央で採水・実施		19 地点で実施
5 流域交流	荒川自然懇談会	計 2 回		荒川の河川環境に関する行政への提言など
	荒川流域再生プロジェクトへの参加	8月、3月17日		荒川流域ネットワークと連携し、シンポジウムを共催、アユ遡上支援作戦に参加
	荒川源流エコツアー	9月1～2日、秩父市大滝		水源林保全ボランティアに参加、意見交換会実施
6 他セクターや全国・世界とつながる活動	埼玉県河川環境団体連絡協議会	2月3日		川の再生交流会に参加
	リバークリーンエイド	8月～		「ふるさとの川クリーン大作戦」呼びかけ
	一般社団法人 JEAN	9～11月		ゴミ調査結果を提出し、世界の海洋ゴミデータに反映
	海ごみサミット	8月24～25日		サミットにおいて発表
7 広報・情報発信	ホームページ	随時更新		荒川クリーンエイド会場情報、イベント案内・報告他
	ニュースレター	4,8,1月に発行		イベントの案内・報告他
	Eメールニュース	各月号及び臨時号を含め定期的に発信		イベントの案内・報告他
	報告集	3月発行 1,500部		インタビューを多用、60ページ
	ポスター・リーフレット	8月制作。ポスター1,000部 リーフレット2万部		荒川クリーンエイドの周知、参加者募集
	プレスリリース	年4回配信		メディアに対しての情報発信
8 運 営	第13回定期総会	5月19日 アモアホール		事業報告・計画等の協議
	理事会・運営委員会	随時開催		予算・決算の提案や ACF の運営に関わる協議
	連絡会	2月15日		報告会と併催